



ご当地ヒーローやご当地キャラクターが大集合

2月23日、産業文化会館ホールで「でくのぼうフェスティバル2014」が行われました。

このイベントは、忍城おもてなし甲冑隊が「第1回埼玉県おもてなし大賞特別賞」を受賞したことを記念して開催されたものです。サイセイバー、さいたままん、テレ玉くん、こぜにちゃん、フラベえ、うきしろちゃんといったご当地ヒーローやご当地キャラクターが集結し、甲冑隊と共に舞台上でさまざまなパフォーマンスを繰り広げると、子供たちは大喜び。さらに特別ゲストとして登場した「よしもと剣喜劇」は、コミカルな動きとユーモアあふれる演技で、会場中の笑いを誘っていました。



消防署南分署に最新式のポンプ車が配備

2月20日、消防署南分署に水槽付消防ポンプ自動車が引き渡されました。

工藤市長からメモリアルキーが手渡された後、消防職員による機器の機能説明が行われました。このポンプ車には、従来よりも少ない水で消火できる「キャプス（圧縮空気泡消火装置）」など最新の設備が搭載されています。火災や災害が起こったときでも、このポンプ車が私たちの心強い味方になってくれることでしょう。



大きくなって戻ってきてね

2月20日、利根大堰で（独）水資源機構利根導水総合事業所が主催する「サケの稚魚の放流」が行われました。

今年は、太田西小学校5年生の児童31人が参加。学校や自宅で育てたサケの稚魚約2,000匹を放流した児童たちは、「大きくなって戻ってきてね」「元気でね」と話し掛け、別れを惜しんでいる様子でした。今回放流したサケは4、5年で戻ってくるそうです。児童たちは、大きく育ったサケに会えることを今から楽しみにしていました。

国際交流への意識を高めよう

2月28日、VIVAぎょうだで「国際交流フェスティバル～世界の料理とダンス交流会～」が開催されました。

料理交流会では日本やアメリカなど5カ国10種類の料理が並び、参加者は各国自慢の料理を味わいました。また、NPO法人グローバル交流協会理事長の細谷美恵子さんを招き「市内でできる国際交流について」の講演の他、タヒチアンダンスの鑑賞・体験も行われるなど、会場の雰囲気は終始活気に満ちあふれていました。食べて、学んで、踊って、充実した時間を過ごした参加者は、国際交流への意識をさらに高めることができたようです。





盛り上がった「行田あきんど市」

3月9日、行田八幡神社および八幡町通りで「第1回行田あきんど市」が開催されました。

この催しは、行田の商店街を盛り上げようと、地元の若手商店主などで組織するNPO法人行田観光物産会（戸塚昌利代表理事）が中心となって行われたもの。ステージイベントやB級グルメの販売などが行われた他、市内外から参加したゆるキャラが会場を盛り上げていました。また、特別ゲストとして、小説「のぼうの城」の作者である和田竜さんが参加。「のぼうの城」ゆかりの場所を和田さんと一緒に歩くツアーやトークショーが行われました。

グルメを堪能したり、多彩なステージイベントを楽しんだり、来場者誰もがこの催しを満喫していました。



こだわりの品が並び、心温まる空間

3月8日・9日、牧禎舎で「アーツ&クラフツinぎょうだ」が開催されました。

今年で3回目の開催となったこのイベントでは、伝統工芸品やアクセサリー、飲食物など29のブースが並んだ他、コンサートも行われ、両日とも会場は大いに盛り上がりました。来場者はお気に入りの一品を購入したり、制作者との交流を楽しんだりと充実した時間を過ごしました。また、牧禎舎は3月にアーティストシェアハウスとして生まれ変わり、芸術の発信拠点として、活動の幅が広がることが期待されます。



生産者との交流で給食がもっとおいしく

3月12日、下忍小学校で学校給食交流会が行われました。

行田市地産地消推進協議会が主催するこの事業は、地場農産物を使用した学校給食を生産者と交流しながら食べることで、児童や保護者に地域農業について興味を持ってもらうために毎年行われています。使われている農産物について、生産者に教えてもらいながら給食をほおばった児童らは「楽しかった」「給食がもっと好きになった」とにっこり。普段とは一味違う給食に、大満足の様子でした。

